

「おひさまの会」会員の皆様へ

## 第40回 おひさまの会

### 「ケアマネージャーさんからお話を聞く会」の報告

平成28年7月9日 PM2:00～4:00

野毛山幼稚園 教育会館2階

本日の「おひさまの会」の活動は40回目になりますが、NPOを外れてからは初めてのおひさまの会です。

当日はあいにくの雨天でしたが、15名の会員の方に参加をしていただきました。

我が国は国民の4人に一人が65歳以上という超高齢社会です。「介護」は家族のこと、自分のことと避けては通れない切実な問題です。NPO法人ワーカーズ・コレクティブ協会理事長としてまたケアマネージャーとして介護の現場で活躍していらっしゃる中村久子様からお話を聞く機会が持てたことは大変有意義な時間でした。



講師；中村久子様

また、参加者からは感想や質問も多く出され、予定時間が足りないくらいでした。

中村様、お忙しい中、おひさまの会のため貴重なお話を聞かせていただき、ありがとうございました。

簡単ではありますが以下に、**当日のお話の概要**をご報告します。

- 1, 西区で家事介護のワーカーズ・コレクティブを立ち上げたいきさつ
- 2, ワーカーズ・コレクティブという働き方について

地域に必要とされる「もの」や「サービス」を生活者の視点で作出す、非営利市民事業で、事業に必要な賃金、労力、時間、いくばくかのお金を持ち寄って対等な関係で働く組織を民主的に運営しています。雇われて働くのではなく、趣旨に賛同した人が出資、運営、経営を担う働く人の協同組合です。

- 3, 参加型福祉がめざすコミュニティ・オプティマム福祉の充実

税金による公的な制度がめざす福祉に対して、市民資本（時間、知恵、労力、幾ばくかのお金）をもちよって自在に作る事ができるのがコミュニティ・オプティマム福祉の優位性です。

2000年に始まった「介護保険制度」は財源不足が深刻になり、たくさんの方が放り出された。介護を予防し、自分らしく暮らせるように、助け合いによる福祉サービスがより必要とされる。「自分で頑張る」「ボランティアにたよる」「助け合うシステムをどうつくっていくか」が大切である。

- 4, 横浜市健康福祉局介護保険課発行の冊子「横浜市の介護保険」を具体的に説明

## 5、事例を通して高齢者福祉の現状について

### 事例① 90代女性 介護3 一人暮らし

始めはヘルパーさんにお世話になることに抵抗があった。介護サービスを受けることは自分を乗り越えることである。

### 事例② 70代男性 介護2 夫婦二人暮らし

階段昇降機を設置してから前向きになり、自立性が高くなった。

### 事例③ 90代女性 自立 一人暮らし

介護申請をしていない。隣人がサポートしてくれる。清々しく生活している。



## 《講師に参加者から出された質問》

Q 公的な介護制度を利用すれば、最後まで一人暮らしができるかどうか。

A 可能性はあると思う。いつも誰かがそばにいるわけではないので、不安もあると思うが自分の気持ちをどこにおくかである。公的な制度だけでなく、ボランティアや助け合いのサービスに願います。

Q 遠方に住んでいる両親が心配

A ご両親がどのように暮らしたいと思っているかが一番大事。始めはヘルパーさんに入っていただくのも抵抗があると思う。時間がかかるが人が人を動かす。

Q ケアプラザはどこで運営しているのか。

A ケアプラザは横浜市の制度で運営主体も横浜市だが、社会福祉法人や福祉サービス協会等の事業所に委託している。

Q 介護認定は他都市に移っても同じか。

A 同じです。

Q 「ワーカーズ・コレクティブ」についてもう少し聞きたい。支援をお願いしたい時はどうすればよいのか。介護認定を受けていなくてもサポートを受けられるのか。急用ができて、病人を一人残してしていけない時がある。

A 認定を受けていないので公的なサービスは受けられないが、「NPO」や「ボランティア組織」を利用することができる。

「ワーカーズ・コレクティブ」でも独自にしている。幾つかあるので紹介できる。西区の「ワーカーズ・コレクティブ」はホームページを見てください。地域包括センターでも相談にのってくれる。



快く会場をお貸し下さった野毛山幼稚園様、ありがとうございました。

次回おひさまの会は、9月3日（土）、「川柳を楽しもう」です。皆様の参加をお待ちしています。

記録 佐藤